

第4回 能美市タウンミーティング（寺井地区）

平成29年6月26日（月）19：30～21：30

寺井地区公民館

【司会】

寺井小学校校下の皆様とのタウンミーティングを始めさせていただきます。寺井小学校校下と言いましても、長野校下と分けて開催します。きょう、こちらにお集まりの皆様は寺井町、末信町、緑町、東任田町の皆様になります。

まず初めに、ご参加の皆様を代表いたしまして、寺井町町会長様にご挨拶をいただきたいと思ひます。

【寺井町町会長】

お忙しい中、たくさんの皆さんにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。寺井がタウンミーティングの4番目ということになります。

21のテーマについて提言を募集しましたが、そのうちのいくつかについて、市長が答えるということになります。どういう答えが出てくるのか、わかりませんが真摯に受けとめていただきたいと思ひます。10年後の能美市がどんなふうに変わっていくか、どう未来が変わっていくか、提言していただきたいと思っております。

提言について範囲が広いため、いろいろな意見が出てくるのではないかと思ひますが、議事進行にご協力いただきまして、いい提言を聞かせていただきたいと思ひています。

【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

お忙しい中、大勢の皆様にお集まりをいただきましたことに、御礼を申し上げます。

4月26日からタウンミーティングを始めて、寺井地区では初めての開催です。2月5日に当選をさせていただいて、2月27日に初登庁し、きょうはちょうど120日目になります。まずは、その節に大変お世話になった皆様に改めて御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

お膝元中のお膝元なので、ほとんど皆さんの顔を存じ上げているものですから、忌憚のないところでいろいろな話をさせていただければと思ひます。

まず、このタウンミーティングで皆さんからいろんなご意見をいただき、意見交換させていただくということの礎にして、私の政治信条であります「現地現場主義」、「市民ファースト」を推進していきたいと思っております。

能美市の最大の課題は人口減少であります。これは能美市に限ったことではなく、日本全国で人口減少が課題となっています。昨年の10月に5万人を超えましたが、実は今、若干5万人を切っております。2040年には4万7300人ほどになると予測されています。そして、高齢化率も現在は約25%ですが、2040年には32%になると予測されています。まさにこの人口減少、少子高齢化が能美市にとって最大の課題であるということです。

この課題をどう改善をしていくか、さらに、能美市どう発展させていくかということで能美市の魅力を発掘、発信、さらに伸ばしていきたいという思いであります。

ではなぜ能美市の魅力を発掘、発信等をするのかというと、1つ目に移住、定住を促進しなければならないからです。どうしてもお子さんが生まれる数が少ないということがあり、人口の維持、さらにふやしていくためには、今、この能美市に住んでいらっしゃる方にずっと住んでもらう、あるいは、ほかの地域から移住をしてもらうということが必要です。

そして、2つ目に企業誘致、地場産業の振興も図っていかなくてはなりません。能美市というのは子育て環境が素晴らしいということで、大変高い評価をいただいておりますが、それだけでは人口はふえていきません。やはり働く場所がないといけないため企業誘致を進める、地場産業を振興させることが必要です。そして、それに伴って能美市の市政を運営していくための財源の確保にもつながっていくだろうということです。

それから、3つ目はふるさと愛の醸成ということです。例えば、寺井中学校を卒業して首都圏の大学に行った子供たちに、この能美市に戻ってきてもらうために、小学校、中学校のころから彼ら彼女らに能美市の魅力というものをしっかり勉強してもらいたいということもあります。

能美市というのは、住みよさランキングが昨年は10位、ことしは先日発表があり、9位に一つだけ上がりました。ただ、魅力度や認知度になると、全国400番台、600番台ということで、大変低迷をしています。そして、我々は「能美市」と漢字で書いてあれば、当然ながら「のみし」と読めますが、東京のほうに行くと、「のうみし」と読まれてしまいます。能美市のブランド力を高めたいということで、このようなポスターをつくりました。

能美市の観光特使に藤田誠さんという方がいらっしゃいます。能美市大成町ご出身のC

Mなどをつくる方アートディレクターで、アサヒビールのCMなどをつくった方です。それから能登町出身の写真家の梅佳代さん、そのお二人に能美市の魅力を発信するポスターをつくってくださいとお願いをしたら、住みよさが上位であること、子育て環境が素晴らしいということを象徴するのは能美市の子供たちの笑顔だろうということでポスターをつくってもらい、東京駅や京都駅、大阪駅、金沢駅、それから、高速道路のサービスエリア等々に貼り、能美市の魅力を発信しています。さらにQRコードが貼ってあり、携帯電話をかざすと能美市のホームページにアクセスできるようになっています。またポスターだけではなくてビデオもつくりました。nomiチャンネルでも流しています。能美市のことを一生懸命PRしていきまして、ホームページでも見ることができるので、ぜひ1回ごらんいただければと思います。

私もこの能美市の魅力をいろんな形で発信しています。それから、市のホームページ、最近では『広報のみ』でも、各町内の自慢話というようなコーナーをつくりまして、能美市の魅力を盛んにPRしています。

能美市の魅力というと、さまざまな魅力があり、皆さんもそれぞれ能美市の魅力についていろいろな思いがあると思いますが、私にとっての魅力を紹介します。

例えば、子育て環境が素晴らしい、そして、福祉や医療の制度が充実している、自然景観が素晴らしい、能美市では10年前の能登沖地震で震度4の大きな地震がありましたが、それ以来大きな地震は観測されていません。また、大きな台風が来ても霊峰白山が防いでくれる、自然災害が少ないということが挙げられます。

それから、コンパクトで町会・町内会組織がしっかりしています。能美市というのは84平方キロメートルありまして、そこに74の町会・町内会の組織があります。この町会・町内会の会長さんのおかげで能美市の市政が安定し、市民の皆さんの声を市政に反映できています。本当に町会・町内会長さんにはいつも感謝しております。それから、文化や各種団体の活動が大変盛んであり、寺井地区公民館を予約しようと思ってもなかなかできない状態です。それだけ市民が活動しており、コミュニケーションが深まっているということでもあり、まちづくりに関するいろいろな議論も進んでいるということだろうと思います。

それから、ものづくりのまちということで、企業誘致が進んでいる、地場産業が大変盛んであります。交通アクセスについて、のみバスに関しては皆さんからいろんなご意見をいただきますが、JR金沢駅まで能美、根上から車で約25分であり、小松空港まで15分で行けます。それから、平成30年の3月には吉原釜屋町に能美根上インターチェンジができ

ます。それから、国道8号バイパスが通っていることで、市民にとって交通アクセスがよく、企業にとっても物流の利便性が高いということでございます。

それから、丸いもやゆず、九谷焼、お酒、お米など特産品が豊富であり、動物園、古墳、フィッシュランド、海、里山などの観光資源が豊富であり、大学、高校があるということも魅力だろうと思います。

それから、住みよさランキングが上位であります。また、予防・健康づくり・医療費の適正化について点数化した評価では、全国1741の市町村のうち能美市は其中で30位、石川県内19市町のうちトップでした。健康づくりが進んでいるという評価もいただき、各種ランキングが上位だということも能美市の魅力ではないかと思っています。

いいことばかりではありません。実は、財政状況はそれほど豊かではありません。やはり、福祉費が年々増加しているということもあり、今後、財源をどう確保していくかということが大きな課題になってきます。

それから、アセットマネジメントということで、老朽化した設備をどうやって直していくかということでもあります。上水道管の工事では、市内には約430キロの上水道の管が張りめぐらされており、それを全部直すのに約100年かかると言われています。100年かかるということは、100年後にもう1回、100年前に直したものを直し始める必要があります。橋、道路も同様で、直していかなければならないということがあります。

それから、高齢者の足の確保について、のみバスのダイヤ、ルートをどう改善をしていくか、本当にたくさんの方からいろいろなご意見やご要望をいただいています。

それから、広域連携の強化ということで、人口が減少すると、やはり、能美市単独で行政サービスが行えなくなります。そうすると、小松市や川北町や白山市さんの近隣との広域連携をしっかりと強化していかななくては行政サービスが維持できないということもあって、そんなことにも取り組んでいかななくてはならないなという思いでもあります。

そのほか、魅力を発信していくことをシティプロモーションといいまして、これを盛んにしようとしています。まず能美市のホームページを新しくしようという思いがあります。それから、能美市の庁舎に入ると1階に市民ホールがあります。今までは九谷焼を飾っていたのですが、能美市の企業さんでつくっている製品を並べて、企業の紹介をしたり、特産品を紹介したりしようと思っています。それから、能美市のトラック業者さんに協力をいただき、トラックの荷台のバックの面に能美市の広告を掲示して、全国を走ってもらい、能美市のPRをしていくことも考えています。

今いろいろなことをしているということを紹介しました。きょうは、ゆっくり皆さんと意見交換をさせていただきたいと思います。

【司会】

それでは、「井出市長と語ろう 10年後の未来」をテーマに皆様からご提案、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

進め方としましては、私からテーマを申し上げて、それについてご発言いただき、井出市長から返答や意見を述べさせていただきたいと考えております。

①U・Iターンの推進について

【司会】

それでは、最初のテーマ、U・Iターンの推進についてです。ご提案、ご意見のある方は挙手をお願いします。

【未信町民】

先ほど市長が言っていたことと重なるかもしれません。現在、人口の減少の原因として若い人が大学進学を機に都会に出て戻らない、新卒の学生が大企業に就職するため出ていくなどがあります。若い人が少なく、高齢者が多くなるのは仕方ないと思われています。それは都会には大企業など働く場所があり、人口も多いのでいろいろな仕事があるからだと思います。能美市は企業誘致を積極的に行っていると思いますので、今後も誘致を進めていただいて、働き場所のある能美市にU・IターンをするようにPRすると同時に、補助などの優遇をしてもらうのはどうでしょうか。それから、誘致した会社の従業員にも定住してもらうように企業に働きかけ、人口がふえるような市にしてください。

【井出市長】

先ほど触れた分は割愛をさせていただきます。ふるさと愛を醸成するだけでなく、高校生や大学生、短大生、専門学校生にダイレクトメールを出す計画をしています。能美市出身で県外に行った方や、県内にいる方たちに能美市というのは住みよい場所である、このような就職口があるということをしっかりと伝えていきたいと思っています。

それから、住みやすさということも概念的ではなく、例えば、北陸電力管内の石川県は電気代が日本一安いということ、それから、高校生まで医療費が無料で、水道をひねればおいしい水が豊富に出るということ伝えていきたいなと思っています。

それから、首都圏のほうにU・Iターンをサポートする窓口としてふるさと回帰支援センターや石川県が運営しているILACというところがあります。能美市のことを一番に宣伝してもらおうと、その2カ所に積極的にPRをしに行きたいと思っています。それから、能美市出身の子供たちに能美市のよさをわかってもらえるような施策をとっていききたいという思いがあります。

また、誘致した企業の社員の方にできるだけ能美市に住んでもらうための働きかけの件ですが、先日、工場が竣工した会社があり、本社から二十数名の方が赴任されたのですが、全員能美市のアパートに住んでいただきました。これからも積極的に投げかけていきたいなと思っています。

【司会】

このほか、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

【寺井町民】

私は福井県鯖江市から寺井町に移り住みました。自分の子供が生まれ、学費が無料、イコール税金でまかなわれていることに改めて気づかされました。そして、私自身が鯖江市の税金で教育を受け、地域に育てられて今の自分があるということに少なからず矛盾を感じ始めました。鯖江市の税金で育った自分が投資してもらった税金を鯖江市に納めず、能美市に返却しているというその事実に対してです。制度としまして、ふるさと納税という制度がありますのでそれを考えたこともありますが、今の私が生活し、子供たちと暮らしている能美市に納税するのがやはり筋だと思い、今はしておりません。

能美市の未来のために、子供たちは税金で教育を受けさせてもらっています。その子供たちは、大きくなっても能美市に住み、能美市で働き、能美市に納税して次世代というものを築いていくべきだと思っています。

子供の医療費無料など、子供たちへの支援は素晴らしいと思っています。壮年団、公民館活動に参加する中で地域の催し物への熱の入れようや治安のよさにも能美市のよさを感じています。

しかし、働き盛りの大人を見た場合、買い物に行くのは市外のショッピングセンターです。勤め先も市外の企業が多く、その方たちは7時から始まる町会の集まりには間に合いません。結果、能美市内で暮らすという感覚がどんどん薄れていっているように感じます。それすらいいほうで、そのまま県外で家庭を築いてしまう人の場合は年老いた親だけの世

帯が残されていきます。私は、学校を卒業した若者がまた戻ってくる町、イコール就職して家庭を築けるまちづくりのために地元就職支援の強化をお願いしたいと思っています。

私はその結果として期待していることは、1つ目は、青年団組織の再生による地域の活性化。2つ目は、町の会合への参加が容易になり、町の活性化にもつながること。3つ目は、U・Iターン就職による若者の増加により独居老人が防止すること、現在、小松・能美・加賀合同就職説明会と小松・能美・加賀合同就職面接会というのを開催していますが、質的にまた新たな企画をしていただければと思っています。4つ目は、私も労務や採用の担当をしていますが、企業さんは非常に人材不足の状況であり、県外、市外に就職していく状況を変えることで地元の企業も活性化できるのではないかと考えています。

【井出市長】

1つ前の質問と重複している部分があるので、その部分は割愛をさせていただきます。合同説明会などのお話がありました。どちらかというと合同説明会は待っているほうであるため、攻めなければならないということで、ダイレクトメールの送信や、いろいろな場所でも能美市をPRすることで就職の情報を発信していきたいと思っています。

それから、企業誘致は進んできていますが、理系の優秀な学校を卒業した子供たちが就職する会社はふえている状況です。文系の優秀な大学を卒業した子供たちが就職する会社は十分ではないと思っています。また、戦略的企業誘致ということで、本社機能を持った企業を誘致しようとしています。そのような企業さんには少し助成金を出しており、本社機能移転を支援していきたいなという思いであります。

あとは、ILAC、ふるさと回帰支援センターに能美市のポスターや情報紙を置き、できるだけ能美市を他の市町村より目立つようにしていきたいと思っています。

②観光・市のブランド化

【司会】

次のテーマは観光・市のブランド化です。ご提言、ご意見ある方、いらっしゃいますか。

【緑町民】

辰口丘陵公園をもっと特徴のあるものに位置づけて、いわゆる、テーマパークのような公園になったらいいかなと思っています。幸いにも交通アクセスがよく、近隣に動物園もあることも踏まえて、もっと特異性のあるものにしていけばいいかなと思っています。

県内を見ると、それぞれの地域にこのような公園がありますが、どれも似たりよつたり
の印象を受けます。やはり、辰口丘陵公園は交通アクセスに加えて金沢と加賀の真ん中に
あるため、石川県一を目指したブランド化を提供する責任があるのではないかと考えてい
ます。きょう、明日という話ではなく、10年後を見据えれば可能ではないかと思ひます。

【井出市長】

丘陵公園の入園者数を調べましたら、平成22年は約21万5,000人ですが、28年は約31万
4,000人と10万人伸びています。要因はわかっていますが、確かに、丘陵公園の人気とい
うのは年々高まっているといえます。

その中で、丘陵公園をどう変えていくかということよりも、近隣にある動物園、それか
ら陶芸村、温泉とをどう組み合わせるかということだと思ひています。丘陵公園には
芝生広場で、遊具や自転車に乗ることや、お弁当を食べながらキャッチボールをしたり、
ボールを蹴ったりすることができるのが魅力なのだろうと思ひています。

その帰りに温泉にゆっくり入ってもらい、陶芸村に行って絵付け体験をしてもらい、飲
食店にちょっと寄ってもらいといった、能美市内の観光資源をセットでPRしていくとい
うことが、丘陵公園の魅力をもさらに増すことになると思ひています。そのようなことを積
極的に取り組んでいきたいと思ひています。

【司会】

このほか、ご提言、ご意見のある方、いらっしゃいますか。

【寺井町民】

観光の面について、国は外国人がたくさん来るように仕掛けをしたり、石川県もクルー
ズ船などを誘致して県内に外国人や観光客が来るように仕掛けを一生懸命つくったりして
いると思ひます。そのクルーズ船などに乗ってきた外国人や観光客が金沢近辺やほかの地
域に流れているということが多いため、能美市のほうに引っ張る方法について思ひことが
あります。クルーズ船に乗るとオプションツアーといってバスに乗って1～2時間ぐら
い移動したところを観光して回ることがあります。先ほど市長がおっしゃったように能美
市の魅力、観光地等いろいろあると思ひますが、そこをぐるぐる回るようなオプション
ツアーを考案して県に提出して、採用してもらえれば外国人やほかの地域の方が能美市に
来るようになります。気に入った方々がインスタグラム、フェイスブック、トリップアド
バイザー等でいろいろと発信してくれて、能美市がより一層世界に広まるというようなこ

とになるではないかと考えております。ご検討をお願いします。

【井出市長】

まさに、クルーズ船がブームで、2016年は30隻、2017年は54隻の予定だったと思います。多くのクルーズ船が金沢港に来るようになりました。これも新幹線の開業効果の一つだと言われています。私もさぞかしたくさんの外国人の方がクルーズ船に乗っているのだろうと思込んでいましたが、調べましたら、昨年、クルーズ船を利用した人は2万5,000人だそうです。そのうちの63%が日本人、韓国人が12%、オーストラリア人が8%、あとは中国、台湾、アメリカということで、6割以上の方が日本人でした。新幹線や在来線、飛行機で石川県に入って、クルーズ船に乗って帰っていくということです。

能美市は北陸新幹線の開業効果を十分に享受できているのかということです。それから、日本では2020年には訪日外国人旅行者を4,000万人にしましょうという計画があります。それを放っておく手はないのではと思っています。能美市には観光ビジョンがあり、有効期限が来年までだったのですが、1年前倒しで見直しを図ろうと思っています。それは、訪日外国人旅行者が日本にたくさん来るということ、北陸新幹線の小松、加賀温泉開業が観光ビジョンの中に盛り込まれていないからです。もっと能美市の交流人口の拡大、観光誘客を取り込めるように、しっかり議論をして、結果を出していきたいと思っておりますので、いろいろなご助言、ご支援をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【司会】

そのほか、ご提言、ご意見のある方、いらっしゃいますか。

【寺井町民】

能美根上駅に観光案内所を設けてほしいです。これはあくまでも10年後を見据えての意見であります。能美市には松井ミュージアム、手取フィッシュランド、いしかわ動物園、九谷陶芸村と観光地がいろいろとありますが、バスなどの交通のアクセスがきちんとされていないので、観光客が非常に迷っているという現状です。例えば、陶芸村に行くアクセスもJRの時間に合っていないので30分から40分待ちの時間になっています。

もっと観光客目線で考えてほしいということです。北陸新幹線の開通以来、県外からたくさんのお客さんが来ていますが、新幹線の時間を気にして能美市へ来る機会が少なくなっているという現状になっているのではないかと思いますので、10年先を見据えて観光案内所を設けてほしいということでもあります。

【井出市長】

まず、現状の話をする、能美根上駅というのは1日の利用者数が約1,200人。ほとんどが能美市からの通勤通学で利用されている方だろうと思います。

バスの件については九谷陶芸村と能美根上駅を結んでいるバスというのは1日4往復ありまして、6分で乗りかえができるものもあれば、ご指摘のとおり40分もかかってしまうものもあります。それを何とかしなければならないというお話だと思います。能美市の交流人口を拡大していきたいと考えたときに、陸の玄関口であるJR能美根上駅をさらに活用しない手はないわけです。能美市にたくさん来ていただけるような仕組みをつくって、そのときに能美根上駅の利用者数もふえれば、観光案内所もつくらなくてはならないと思いますし、先ほど九谷陶芸村が4往復だと言いましたが、のみバスが常に満車になるようなことがあれば、6往復、10往復しなければならないでしょうし、バスのサイズも大きくしなければならないと思います、10年後に向けて、そうなるようにいろいろと取り組んでいきたいと思います。

【司会】

そのほか、ご提言、ご意見のある方、いらっしゃいますか。

【寺井町民】

2014年、『ほっと石川』夏季号でニッチトップ、すき間産業の関係の記事がありました。生産しているものが全国的に優秀な地位を確保している企業についての特集で、能美市内の企業も掲載されていました。市内には、ほかにも大変有名であり、国内トップの製品もあります。

さらに、歴史遺産として和田山1,2号墳からは六鈴鏡、鈴付銅釧などが出土しており、これは北陸では初めてだったため非常に珍しいということです。

また、和田山23号墳の須恵器から確認された、「末」と、漢字の棒2本の「二」という文字が見つかったそうです。これは全国的には非常に珍しいものです。

また、平安時代に江沼郡から分離され、能美郡が誕生しました。小長野集落から「能美」と書かれた最古の墨書土器が発見されています。

これら、現在、過去において素晴らしいものがたくさんありますが、これらのものについて、多くの市民がどういうものかということをおぼえておりません。この寺井地区公民館に、大きなものは展示できませんが、せめて写真などで説明して、まず地元の市民が能

美市をよく知らなければだめだと思います。

【井出市長】

1つ目に市内の企業のことをもっとPRしたらどうかということ、2つ目に和田山で発掘された出土品をどこかに展示したらどうかということだと思います。

まず、1つ目の能美市の企業については、先ほどから申し上げているように、シティプロモーションの中でいろいろ発信をしていきたいと思っています。能美市の中にはたくさん世界に通用する製品をつくっている企業があります。それを、市役所のホールを使ってPRをしていきたいと思っていますし、ホームページ等でも紹介していきたいと思っています。

それから、いわゆる産業観光という、最近そんな言葉がありますが、昔で言う社会見学です。そのようなことも、地元の企業さんをお願いをしていこうという思いがあります。その効果としては、ふるさと愛の醸成、UIターンの促進が挙げられます。そうすることによって企業さんも優秀な人材を確保できるということにつなげていけるのではないかと考えています。

それから、出土品だとか郷土の品々をもっときちんと展示したほうがいいのかというお話ですが、能美市の博物館をリニューアルして和田山周辺に新しく、作り直そうという思いがあります。今、辰口に博物館が、和田山周辺に歴史民俗資料館がありますが、両方とも取り壊して、それを合わせたようなものを和田山周辺につくりたいと思っています。平成32年春の完成を予定していますが、今言われたような出土品だけではなくて、江戸時代、明治時代、大正、昭和の初期時代に我々が使ってきた生活用品もそこに展示するようにして、能美市のふるさと愛を醸成するような場所にしたいと思っています。そこにある博物館の隣には古墳、和田山史跡公園がある。それから、防災センターがあります。それから、今度警察署もできるということで、一帯を能美市の子供たち、家族連れがずっとそこにいていただけるような憩いのゾーンとして再開発していきたいと思っています。今、プランを練っていますので、まだ何かこんなことしたほうがいいのかという参考意見があれば、またおっしゃってください。

【司会】

そのほか、ご提言、ご意見ある方いらっしゃいますか。

【寺井町民】

現在、東西連絡道路拡幅工事中ですが、大きな道路ができる、ただ通りすぎるだけのパターンが多いのです。そういうのはもったいないということで、まちなかの賑わい創出ということで、寺井図書館前の通りに道の駅のような特産物の販売や休憩施設の機能を兼ね備えた能美市の情報発信基地を新たにつくってはどでしょうか。

【井出市長】

「てらかつ」という組織があり、私も県会議員時代から「てらかつ」の顧問に就任しています。「てらかつ」では東西連絡道路周辺の活性化について3年ぐらい議論していただいています。皆さんから計画中の事業についてご意見をいただいたり、新たな提案をいただいたりしています。

今、東西連絡道路周辺の利活用策というのは大体固まってきており、道の駅というご提案ですが、それだけの規模のものをつくれる場所が今のところ確保できない状況です。ただ、せっかく道路ができるので、何かしらかの活用策があると思います。例えば店がたくさんあるので、露店のようなものを出していただいて賑わいを創出したり、あとはイベントや祭りを定期的に開催したりすることで活性化を図ればいいのではないかと考えています。

ただ、将来的に大規模な土地を確保できるような事があれば、それを有効活用していくようなことを、「てらかつ」の皆さんと協議できればいいなと思っています。

③九谷の里づくり

【司会】

次のテーマは、九谷の里づくりです。ご提言、ご提案のある方、いらっしゃいますか。

【寺井町民】

全国に点在する焼き物の産地を訪ねてみると、そこには工芸に携わる人たちとそこに生活する人々との混然一体となった魅力ある雰囲気のみちが存在します。

また訪れてみたい、うろうろするだけでいやされるような、そんな空間ができるのも、そこが本物の焼き物の里であるからです。焼き物の里とはまちなかであり、あらゆるものが入り乱れ、そこに住む人々と一緒にあるべきものです。九谷の里づくりもそのような観点からつくりなおすべきと考えています。九谷の若手、後継者がどんどん誕生していますが、ほかの地に行き、残る方が少ないです。昔と違って問屋を必要としないため、ど

んどん能美市以外に散らばっていています。このまちを九谷の里とするため、人の住まなくなった家や土地を活用してまちなかに九谷町の工房を誘致するという政策が必要と思われれます。それが九谷町の里づくりの始まりだと思いますので、町おこし、九谷町おこしにつながるおもしろい展開ができると思いますのでよろしくをお願いします。

【井出市長】

私のうちも昔は九谷焼屋だったため、その思いは強い一人でもあります。

おそらく、このまち寺井町を九谷の里にしてほしいということを行っているのだと思います。最近では新たに窯を構えて人に来ていただくような仕掛けをつくっていただいたり、町家を開放して多くの方に公開されていたり、実際に問屋さんで窯を焚いていたというのには本当に少なくなりましたが、作家さんがまだたくさんいらっしゃいます。そこで九谷の里として、この寺井町を活性化したらどうですかということだと思います。

若手の後継者がいなくなっているというお話もありました。実際、泉台にある九谷焼技術研修所を卒業した人たちになかなか能美市に定住をしていただけないということがあります。何とかしたいという思いの中で、今回、調査費という形で予算計上しました。それから、技術を伝承していくというようなことも必要であると思えます。

また、作陶活動を見ていただくことで観光誘客の増につながると思っています。能美市内を見ると、適地が何カ所かあると思えますが、市内で点在してしまうと観光客の方もどこに行ってもいいのかわからなくなってしまうということもあります。九谷焼業界の皆さんと、どこがふさわしいのかなどしっかりと協議をさせていただきながら、この九谷の里づくりに取り組んでいきたいなと思っています。

【司会】

そのほか、このテーマについてございますか。

【寺井町民】

定住促進ということで、ワーク・イン・レジデンスという支援制度があります。伝統工芸などの創作のために寺井に住んで寺井で起業したいという人たちで、空き家を利用したいという方が多いです。しかし、空き家というのは相互に合意しないと入れないという状況です。また、ワーク・イン・レジデンスでは、例えば、寺井町に住んで起業したいといったときに、1つ問題点があります。ある特定の範囲に住まないと補助金が加算されないという縛りがあります。定住や移住の促進という観点から言うと、その縛りを外して、どこでも住めるようにするという考え方はいかがでしょうか。

【井出市長】

おっしゃるとおりでワーク・イン・レジデンスを利用して企業いただいているのは辰口地区が多いというのが実態です。今度、仏大寺にもイタリアンレストランができるということもあります。もう少し利用者の状況を見ながらさらに活用していただけるような、そんな施策を考えていきたいと思っています。

特に、九谷焼関係の皆さんにも積極的に利用してもらえるような、もう少し工夫ができないかということも、さらに練り直してみたいなと思っています。

【寺井町民】

ワーク・イン・レジデンスの中にいろいろな要件がありますが、その中でも町なかに住まない例え25万円の補助金がないという枠があります。その町なかの定義が非常に曖昧で、その枠からちょっと外れるとそれが適用されないという、状況です。その枠をはめる必要性が本当にあるのか、定住促進、人口増が目的だとしたら、経済の発展、税収も含めて将来のことを考えたら、そういう枠は要らないのではと思います。

【井出市長】

そこもおっしゃるとおりでございまして、能美市全体を見たときに、こういったところを振興させていくかということだろうと思います。

ワーク・イン・レジデンス事業全体をもう一回見直して、その地域にこういったものがふさわしいのか、例えば助成金金額を変えていくとか、さらに条件を緩和させるということ、事業全体を見直してその地域にこういったものが最適であるのかということを考えていきたいなと思っています。

④高齢者福祉の充実

【司会】

次のテーマは高齢者福祉の充実でございます。

【東任田町民】

私の町は高齢化率38.1%です。寺井地区の中で常に高い高齢化率のトップを走っています。寺井地区全体に及ぼす影響は大かなと思っています。

そういった中で高齢者福祉の充実について、3つの視点から意見を述べさせていただきたいと思っています。

まず、1点目は老人福祉センターの活用で、増加する高齢者の中で楽しく高齢者が集える場所として能美市では、寺井地区には亀齢荘、根上地区には白寿会館、辰口地区には辰口福祉会館の一部を活用しています。3つの施設では、入浴、休憩といった活用をしていますが、これをもっと憩い、癒し、交流の楽しい場として大広間や別館など最大限の活用策を図れないかと思います。聞くところによると、辰口の福祉会館では、週1回、福ちゃんカフェが地域のボランティアによるカラオケ、合唱、体操、楽器演奏の視聴など、聞いたり、参加したりとふれあいとコミュニケーションの場として提供されております。そういった中で、例えば、オープンカフェや辰口のようにボランティアグループ等による週1回ないし2回程度の催し事業を展開し、高齢者がいつでも楽しく利用したくなる施設運営を企画したらどうかという点が1点であります。

この施設は、介護予防事業、介護認定を受ける以前の虚弱高齢者の事業でも利用されていますが、楽しく催し事業に参加することによって、そういった人たちの介護予防にもつながるのではないかなと思っています。

それから、2点目は土地利用です。高齢化、核家族化が進み、農業、林業の担い手が減少し、その中で特に居住しているところに近い畑地の活用策が課題となっています。土地所有者、行政、JA、担い手団体等が役割をもって、土地所有者が高齢を迎え、田畑の耕作や山林の管理等ができなくなっても土地の荒廃の不安なく安心して暮らせる制度の確立ができないか、田の耕作については、JAを通してある程度の制度が確立されているようです。例えば、土地の無償譲渡、貸与、市特産物の耕作地活用、担い手団体への委託というものがあると思います。高齢者のみでなく、若い家族の方たちも常に土地を持っていて不安な思いがあると思います。

それから、3点目として、自動車免許証の返上についてです。高齢者や障害を持つ人が自動車運転免許証を返納しようとしても、現状は移動手段を自家用車に頼るしかない状況です。自家用車に頼らなくてもよい移動手段の検討と実施を望みます。

以上、3点について、高齢者福祉の問題について意見を述べさせていただきました。よろしくお願いたします。

【井出市長】

多方面にわたり、本当に難しい課題ばかりいただきまして恐縮でございます。

まず、楽しく高齢者が集える場所のお話ですが、調べましたら、確かに辰口福祉会館は白寿会館、亀齢荘と比べるとメニューが多いということです。これは、辰口福祉会館は部

屋がいっぱいあるためたくさんメニューがあるということです。例えば、我々近所の方がよく使われる亀齢荘を調べましたら、ボランティアによるふれあい喫茶というのもやっています。それから、サークル団体や趣味グループの余暇活動もやっています。もし、こんなことをやったらいいなというようなことがあれば、また具体的におっしゃっていただければと思います。

それから、農業の件ですけれども、これはもしかしたらご存じなのかもしれませんが、農地中間管理機構という、農業ができなくなったから農地を何とかしてほしいという方と、農地があればまだまだつくりたいというような方をマッチングさせる組織があります。市、JAも窓口になっていますので、お気軽にご相談していただければと思います。

それから、交通弱者の件、これは高齢者の方だけではなく、車を持っていない学生さんもあてはまります。金沢に通勤する人は能美根上駅までバスで行って、そこから乗りかえる方もたくさんいると思います。のみバスの問題というのは、本当にたくさんの皆さんからいろいろなご意見をいただいています。

余談になりますが、ある会で、停留所まで行くのが面倒、遠いし行けない、うちの前まで迎えにきてほしいという方がいらっしゃいました。10人ぐらいの方から、私も、私もと言われたので、では皆さんのところに迎えに行きます、でも、今まで皆さんのご自宅から最終の目的地まで30分で行けましたが、皆さんのところにお迎えに行っていたら1時間半かかるかもしれません、それでもいいのでしょうかと言うと、いや、それは困ると言われました。そうすると今ののみバスの形態はある程度限界があるのかなと思います。泉台町でやっています「えんがわ」さんのように、地域の皆さんが一緒になって交通弱者の方をお助けしていく、そんな仕組みが必要ではないかなと思います。

今、一生懸命どういう形がいいのかというようなことを考え始めています。ただ、のみバスの状態について、皆さんから本当に何とかしてほしいと言われます。今まで市が何もしてこなかったかと言うと、そうではなく、市民の皆さんにアンケートをしていますし、市の職員が実際にそのバスに乗って、利用状況を数えたり、乗っている人にどこからどこまで乗っているのですか、どのぐらいの頻度で乗っているのですかということを知ったりと、本当に細かく調査した経緯もあります。でもまだそんなお声をいただいているという状況であり、何とかご理解をいただいて、できるだけ皆さんが利用しやすいような制度に向けて、少しずつですけれども努力をしていますのでもう少しお待ちいただければと思います。

【司会】

このほか、ご提言、ご意見のある方は。

【寺井町民】

私は昭和24年生まれで、ちょうど団塊の世代の真っただ中におります。男の平均寿命が大体80歳というふうに聞いていますが、あと10年とちょっとになりました。できれば、この先「ピンピンコロリ」が一番いいのですが、勝手に思っています、うまくいくとは思いません。同い年の方でも何年か前から認知症になっている方もいます。いずれは、湯寿園にお世話にならなければならないかなと思っていますが、聞いた話では希望者が多くてなかなか入所できないようです。先般、手にした情報誌によると、待機者数が134人になっており、一体この134番目の人はいつになったら入れるのかなと思います。入所できない場合には、能美市以外の施設に入っているという話も聞きます。また、年金も下がっており、民間の施設は高くて厳しいと思います。湯寿園のような施設をもっとつくっていただいて、順番待ちができるだけ少なくなるようできないのか、やむを得ずほかの施設に入所する場合には、補助はしてもらえるのかお聞きします。

それから、能美市に企業がきて若い人が定住し、いずれ年をとって施設に入所する場合でも、能美市の施設以外に入所するより家族が住んでいる能美市の施設に入所したほうがいいと思います。年をとっても施設があるという能美市ならば若い人がまた定住を考えるのではないかと思います。能美市の10年後の未来に期待しまして、よろしくお願いします。

【井出市長】 能美市の福祉施設の状況を調べますと、介護老人福祉施設というのは、能美市には湯寿園とボニジュール根上苑ということで、2施設あります。それから、認知症のグループホームが10施設、小規模多機能型の居住施設というのが6事業主など、それぞれの介護の状態に応じて施設がそれぞれありまして、湯寿園については、ある一定以上の介護状態の人しか入所できないというように改定され、市では、1カ月から3カ月ぐらいで入れるという状況を把握しています。今、130人待ちということですが、（在宅にて療養されている方については）比較的入りやすい状況になっているということです。

その一方で、やはり、認知症、介護が必要になってもできるだけご家族と一緒に暮らしていただけるようにしていきたいなと思っています。地域包括ケアシステムと言っていますが、施設に入るのではなく、家族と一緒に、近くで暮らしていただけるような制度を充実させていったり、支援体制を充実させていったりといったことを取り組んでいます。も

っといえはずっと健康でいられるような施策を今一生懸命しており、ぜひ、ご家族と一緒に過ごしていただけるようなそんなまちにしていきたいなと思っています。

【司会】

他に意見はありますか。

【寺井町民】

今、東西連絡道路は寺井地区内の工事が始まり、正確に何年に終わるか知りませんが、完成した暁には、ぜひ、周辺の田んぼを市街化区域にしてほしいということです。

第一町内会はまだ少子高齢化ではなく少子高齢そのものの町となっています。周辺の町では住宅地ができれば埋まるというような状態になっていますので、寺井町も市街化区域にすれば能美市の人口増にもまたつながるといこともあります。大変難しいかもしれませんが、よろしくをお願いします。

【井出市長】

まずは、本当に、大変難しいです。優良農地で、市街化区域にするのは本当にハードルが高いということが、調べましたら改めてわかりました。

東西道路からは離れますが、まだ横町地域の中でも宅地造成できるようなところも残っていると思いますので、まずはそこから宅地にできればなど、民間の土地でもありますから、その方のご理解をいただかないといけないので、私の立場からどうこう言えることはないのですが、農地以外で地元の方と一緒に宅地造成をしていただけるように押し進めていければと思います。

ただ、そうは言いながら、寺井町の発展のためには、土地の有効活用をしていかなければならないという思いはありますので、また、相談をしながらいろいろと取り組んでいきたいなと思っています。

⑤人や自転車にやさしい道路の整備

【司会】

次のテーマは人や自転車にやさしい道路の整備です。これについて、ご提言、ご意見のある方、いらっしゃいますか。

【末信町民】

先ほどから言われている東西連絡道路など車に対しての道路は非常によく整備されるよ

うになってきています。しかし末信町にあるコミュニティ道路は学生さんや散歩の人たちがよく利用される道路ですが、残念なことに、夜になると非常に暗いです。自転車はライトをつけて走っていますが、あの道には花壇があったり木が植えてあったり、下手するとぶつかる可能性があります。

それで、太陽光、ソーラー発電を利用した道路鋸や路肩鋸などの設置はどういうふうにしてもらえますか、お聞きします。

【井出市長】

まず、その道路を着色し、歩行者と自転車を区分する工事を予定しています。今、寺井町から来て小学校の前で着色が止まっているかと思えますけれども、もう少し延ばす予定です。

それから、明るくするという話ですが、これはまた町会の方とご相談をいただき、市のほうに要望していただければと思います。街灯がLEDになれば相当明るくなります。今のところ20～30メートル間隔ぐらいでLED灯具があれば十分であると把握しています。

1基当たり支柱から整備して約10万円かかると算出しています。整備する際の補助金に関しては細かい計算がありますので町会から市に相談・要望いただければと思います。

【寺井町民】

やさしい道路ということですが、私も最近、80歳ですが自転車や歩くということをしています。しかし、歩道の状態がやさしいというのはまったくないです。車椅子に人も同じことを言っています。大きい道路の場合は、歩道の幅が広いので別ですが、前からある県道、市道について、お金のかかる仕事ですが将来的には考えたらいいのではないかと思います。

それから、自転車は車両ですので道路を走らないといけません。しかし歩道でも自転車が通ってもいい場合もあります。私も詳しいことはわかりませんが条件がいろいろあるらしいです。その整備も考えていかなければならないと思います。

福祉の話ですが、私も民生委員を長年しており福祉に携わってきましたが、健康寿命をいかに延ばすかということにお金をかけたほうがいいのではないかと思います。教育委員会が開催したスマートウォーキングのようなことに、少しでもお金かけていくべきです。施設の整備だけでなく、いかに健康で長生きできるかについて考えてほしいです。

国土交通省が管轄しているサービス付高齢者向け住宅ができ、湯寿園よりも費用は高いと思いますが、満室と聞いています。自助努力というものも必要だと思います。これから

は行政に何でもおんぶに抱っこということではなくて、自助努力というものもしっかり植えていく施策をしていかなければならないと思います。若い人は減り、高齢者が増えている状況ではどれだけお金あっても足りないので、大胆に考えていってほしいなと思います。

【井出市長】

いろいろアドバイスもいただきました。ありがとうございます。道路の整備についてはお金がかかることですので順次やっていくということです。

歩道に関しては、金沢駅から県庁まで道路では自転車が走るところと人が歩くところが分けられています。あれくらい広い歩道であればできると思いますが、実際には能美市の中でそれぐらいの道があるのかなと思うとなかなかありません。将来的には、大きな道路が通ったときには考えていかなければなりません、現状では難しいと思います。

ただ、この前、自転車が通れるように車道に色をつけたらどうだというお話もあったので、1回考えてみたいなと思っています。

それから、健康寿命を伸ばす、おっしゃるとおりでございまして、健康診断、がん検診などをぜひ受けていただければなと思います。国民健康保険の人には市役所から健診を受けましたか、受けた人はその結果を出してくださいと皆さんのところをお願いがと思っています。これは何のためにやっているかという、健康づくりのためにお願いをしています。健診の結果を市に送っていただくと、市の職員はそれを全部見て、保健指導を一生懸命おこなっています。実は、私も今まで何でそんなことをやるのかと思っていましたが、市長になってそういうことが大切だということが初めてわかりました。

それから、運動ですが、能美市ではいろいろなウォークイベントを開催しています。また、いろいろな健康づくりのセミナーや教室も盛んにやっておりますので、ぜひ皆さん、奮ってご参加をいただいて健康づくりにいそしんでいただければという私からのお願いでもあります。

【司会】

そのほかありますかでしょうか。

【緑町民】

実は、私の家の前をたくさんの中学生が自転車で通ります。中学生の孫に聞くと寺井中学生のほとんどが自転車通学ということでした。少し驚いたので、現場を見ようと朝の登校時に中学の校門の前に行くと。自転車で来ている生徒が本当にたくさんいました。先日、

校長さんにお会いして実情を聞くと、全生徒数に対し、自転車通学生徒数の割合は81%ということでした。

私が子供のころは遠方の方は自転車で通学していたと思いますが、今日に至ってはこのような状況であります。なぜかと聞くと、防犯のためと言われ納得しました。

そこで、朝の登校時の短時間で集中して自転車通学されるということで、非常に交通の面から見て危険だと感じました。ちなみに、ご案内のとおり、寺井中学校の正門の前には4本ほど主な通学道路があると思います。道路によって、通学の量が違いますが、それぞれ非常に危険だと感じました。通勤の時間帯でもあるということで、一般の車も通りますし、先生の車も非常に多いです。聞くとところによると、旧寺井保育園の跡地が先生の駐車場になるという話があるようなので、よかったと思っています。

とにかく、自転車で大勢の生徒が通学してくるということなので、ある意味大胆ではありますが、通学時間帯は、車の進入・通行を遮断するというほどの決意をもって臨んでいかななくてはならないのではないかと、何か事が起こってからでは遅いということを痛切に感じました。

自転車が、歩行者が車に対しては絶対弱者ではあるので、言い方は雑駁^{ざつぱく}ですが、危険なものはよける、そういう考え方にならざるを得ないかなとも思っています。自動車の通行のあり方について、ぜひとも市長さんのご意見を拝聴したいと思っております。

【井出市長】

まず、そこまで調べていただいたことに感謝を申し上げます。

ご存じだと思いますが、私の家というのは北國銀行寺井支店の隣です。通学時間帯は雨、雪が降った日は交通量が多いです。家の前にたくさんの車が停まり、そこから中学生がおりてきます。もう大渋滞になっているのですが、その原因がわかりました。実は、朝の7時から8時は寺井中学校校門前の道路は車両進入禁止になっています。車の乗降は北國銀行の前でお願いしますとなっています。一応、規制はかけていますが、それが徹底されていない状況です。

私も挨拶運動でよく寺井中学校の前に立ちますが、やはり思いの外、車が入ってきます。それから、先生の車も入ってきています。もうしばらくしたら、旧寺井保育園の跡地が先生の駐車場になりますので、もう少し学校の前の周辺の車の出入りは少なくなるのかなという思いはあります。規制を徹底できるように、教育委員会、町内の皆さんともご相談をして、できるだけ中学生の自転車に乗っている子が危険な目に合わないよう

ていきたいと思ひます。

【市民】

関連質問です。今ほど自転車のお話がありましたが私の家の前の歩道で、よく3列、2列、並列で自転車を運転している高校生や中学生が多いです。これをぜひ、教育委員会や学校に改めて指導していただけないかと思ひます。非常に危ないので、恐れ入りますがお願いします。

【井出市長】

寺井高校生もいるかと思ひますので、寺井高校、寺井中学校にそのような運転をしないようにと、指導徹底したいと思ひます。

【司会】

大分時間が押ししておりますので、次のテーマに行かせていただきます。

⑥消防防災体制の強化

【司会】

次のテーマは、消防防災体制の強化です。ご提言、ご意見のある方いらっしゃいますか。

【末信町民】

消防防災体制の強化ということで、ほかの人の意見でありますますが代表してお話します。

各町で防災備品を整備していると思ひますが、末信も毎年行っています。自分の町だけという考え方ではなく、隣町やもっと広域に防災備品を保管し合うという考え方があるのもいいのではないかと思ひます。発電機などの大型の備品は特にそうですが、それ以外でも、市で防災備品台帳を作成していただき、どの町に何があって何がないのかということ把握して、それぞれの町に不足しているものを連絡していただければ、効率的に防災備品の整備ができると考えています。

また、そういうやりとりの過程の中で隣町や広域で防災に対する協力体制ができると思ひますので、ぜひ、ご検討をお願いしたいと思ひます。

【井出市長】

まず、市では能美市が持っている備品を把握し、リスト化されています。加えて、各町で独自にいろんなものを持っているのが現状のようです。

万が一のときには能美市からこの町に足りないものがあるので融通してくださいということをしつかりと伝達ができるような仕組みは考えていきたいと思ひます。そんな場

合というのは、余程の大きな災害で、物流が全部マヒして大変な状況になったときだと思います。本当に大規模な災害が起きたときは、情報を共有していくということが必要だと思います。我々もしっかりとマニュアルの整備を進めていきたいと思っています。

⑦学校教育の充実

【司会】

では、最後のテーマになります。学校教育の充実について。ご提言、ご意見のある方、いらっしゃいますか。

【末信町民】

昨年10月、全国学力テストの結果が北國新聞に出ていました。内容は、4科目について石川県内の市町村の成績が、県平均を上回る、同程度、下回る、のいずれかであると明示されていました。非常にびっくりしたのは、能美市の小学校6年生は、4科目とも県平均を下回る、中学3年は県平均と同程度という現実でありました。

住みよさランキングは上位ですが、教育力という言い方をしているのかどうかわかりませんが、それを加えるとちょっと下がるのかなと思います。教育力だけをとると石川県で一番悪いということが明示されていました。内容的に精査は教育委員会でされていると思いますが、数字だけを見て感じたのは、能美市の学校の先生方は疲れ切っており、子供と接する時間が少なくなっているのではないかと思います。いろんな意味での対策があるかと思いますが、ぜひ、先生方が余裕を持って子供たちに接することができるような環境をつくってあげてほしいなと思います。

一つは、退職教員の方がどんどん出ていらっしゃると思います。そういう人たち、小学校、中学校に派遣していただいて、正規の先生方の雑務を取ってあげて子供たちに向き合う時間をふやすということがとても大事だと思います。

先ほど、市長はどこかの企業の二十名ぐらいの人が能美市に全部住みましたとおっしゃいましたが、その人たちに子どもがいた場合、具体的に学校教育、いわゆる能美市の教育力というものを知らしめたら、他の市町に住んで能美市の企業に通勤するというようなことになるのかなと危惧しております。

せっかく立派な企業を誘致しても効果は半減ではないかと思うので、ぜひ教育力を高めるという意味で何か方策をお願いしたいなと思っています。

【井出市長】

おっしゃるとおりでございます、今、能美市の学力がちょっと低いなということは私も教育長も把握をしており、これを本当に何とかしなければならないという思いは強いです。

まず、石川県の教職員全体の数の約半分が50歳以上ということで、言いかえれば10年で教職員の半分が入れかわるという状況です。ですから、石川県でも若い人をどんどん採用しています。加えて、退職される優秀な先生がたくさんいらっしゃいます。そういった方に学校教育に携わってもらい機会をもっとふやす必要があるということで、県下全域でいろんなことをしています。

実は、能美市の中でも今退職をされて教員をされている方が26名いらっしゃいまして、いろんな仕事、大きく分けて3つの仕事をしていただいています。

1つ目は実際に教室で教鞭をとっていただいている。それから、2つ目は先生をサポートするお仕事、3つ目は授業が終わってからの学習を見ていただくといったことを、退職の教員の人にやっていただいています、それが徐々にではありますけれども、少しずつ学力を押し上げているという状況であります。

それから、もう一つ、先生の負担を軽くすべきではないかというご指摘の中ですが、最近新聞によく出ている、部活動を土日のどちらかを休みにしようということがあります。実は、ことしの4月に能美市内の学校の先生にどれぐらい休日出勤、残業をしていますかと調査をしたら、県下の学校と比較しても熱心に仕事をしてきていました。やはり、これだと先生もご負担が大きいなということもあり、能美市内だけではなく、近隣の市町とも一緒になって土日どちらか部活を休みにして、先生に少しゆとりを持ってもらおうということもしています。

能美市だけが部活を土日休みにしちゃうと、競技力が落ちてしまうので、周辺の市町と一緒に土日休みにするということをしています。それがこのエリアだけでなく県内全域で休みましょうということをしようとしています。

それから、もう一つは、コミュニティスクールというもので、地域の人たちに学校のいろんな教育のサポートをしてもらおうということがあります。他にも、郷土愛を育むために地域で頑張っている人たちに道徳の先生になってもらったり、会社の第一線で頑張っている人たちにその仕事の魅力だとか、会社について教えてもらったりなど、そんなこともしながら子供たちの学力も向上させ、ふるさと愛も醸成していこうというようなことに取

り組んでいます。まだまだ教育長の頭の中にはこんなこともやりたい、あんなこともやりたいということがいっぱいありまして、何とか能美市の教育力の向上にも取り組んでいきたいなと思っています。

【司会】

このほか、ありますか。

【寺井町民】

市長が言われたように、高齢化社会と言っているような状況ですが、60歳定年だと、元気な高齢の方の人材がたくさんいらっしゃいます。会社で何十年も実践的なものづくりに携わってきた人たちがたくさんいると思います。そのような人たちを組織化して、子供たちへものづくり、それから、実践的な遊びを通じた機械の仕掛けやいろんな物事の科学的な仕掛けをたくさん教えることが可能ではないかなと思っています。

これは小松市が行っていることですが、ものづくり教室、理科教室といったことを、企業を退職された人たちが組織して、遊びを入れながら延べ何百人という学童に教えております。私もそれに少し携わっているのです。学校での勉強と実践的な遊びを通じた物事の仕組みを教わるという、そういう実験的な要素を含んだ講座を能美市の中で組織化できたらなと思います。10年後の未来ということで、学校教育とちょっと離れますけれども、学童にもものづくりを教えていく、民間の定年後の人材を活用してボランティアを結成していくことも可能ではないかなと思いました。

【井出市長】

とってもありがたい話です。おそらく、今おっしゃっているのは小松製作所の取り組みのことをおっしゃっているのだと思います。私も、どんな取り組みをしているのかということを知った覚えがあります。ものづくりに長けた方というのはたくさんいらっしゃいます。子供たちもわかりやすく、またおもしろく紹介をしてもらうことで、ものづくりに関する興味も高まったり、それが理科や物理など科学の学習に効果をあらわすこともあったりすると思いますので、何かそのようなことをできないか検討したいと思います。その節には、ぜひまた講師になってご協力をいただければと思います。よろしく申し上げます。

【司会】

最後に、井出市長からきょうの感想も踏まえて最後のご挨拶をさせていただきます。

【井出市長】

どうも皆さん、日中仕事のお疲れのところを長い時間おつきあいいただきまして、ありがとうございました。

タウンミーティングもきょうは4回目です。私はことし限りでこのタウンミーティングをやめると思っておりません。毎年のようにこのタウンミーティングはやり続けたいと思っていますし、今は74町会・町内会を12に分けて始めていますが、終盤のころになったときにはテーマ別に分けてタウンミーティングもしたいとも思っています。今のところ、文化、婦人団体等でミーティングを予定していますが、またこんなテーマでしたらどうだというご提言もいただければ、そんなタウンミーティングもやりたいと思っています。

それから、家が寺井町でございますので、またいろんな会に呼んでいただければ、一献を交えながら忌憚のないお話もさせていただければなと思います。それから、ここから少しだけ距離がありますが、市役所にもおります。なかなか時間がとれないと皆さんからお小言もいただいておりますが、ぜひ、市役所のほうにもお越しいただいて、いろんなお話を聞かせていただければと思います。

きょうは、本当に長時間ありがとうございました。皆さんがいつまでも笑顔で暮らしていただけるように、引き続き頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いを申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。